

平成25年2月8日(金)

平成25年3月期 第3四半期 決算説明資料

株式会社 カネカ

もっと、驚く、みらいへ。

Kaneka

• 業績概要	P.	3
• 主要指標	P.	4
• 事業セグメント別 売上高・営業利益の状況	P.	5
• 連結貸借対照表	P.	12
• 連結キャッシュ・フロー計算書	P.	13
• 為替変動の影響	P.	14
• 海外売上高	P.	15
• 設備投資・減価償却費 / 研究開発費	P.	16
• 業績予想	P.	17
• トピックス	P.	18

(平成25年3月期 第3四半期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 2参照)

(単位：億円)

	24年3月期 第3四半期累計	25年3月期 第3四半期累計	増減額	25年3月期 予想
売上高	3,519	3,533	14	5,000
営業利益	95	118	23	200
経常利益	90	120	30	185
四半期純利益	30	66	36	100
為替レート (円/US\$)	78.98円	79.95円		80円
為替レート (円/EUR)	110.63円	102.04円		105円
国産ナフサ (円/KL)	55,200円	55,300円		60,000円

◎ 売上高は前年同四半期連結累計期間（以下、前年同四半期）に対して+14億円・+0.4%の増収となりました。

◎ 利益は前年同四半期に対して営業利益は+23億円・+24.4%、経常利益は+30億円・+33.2%、四半期純利益は、+36億円・+120.3%の、それぞれ増益となりました。

	24年3月期 第3四半期累計	25年3月期 第3四半期累計
・ 売上高営業利益率	2.7%	3.3%
・ 売上高経常利益率	2.6%	3.4%
・ 売上高四半期純利益率	0.9%	1.9%
・ 1株当たり四半期純利益	8.87円	19.65円
・ ROE (年換算)	1.6%	3.5%
・ ROA (年換算)	2.7%	3.4%

	24年3月期末	25年3月期 第3四半期末
・ 自己資本比率	53.0%	53.6%
・ 1株当たり純資産	734.61円	744.36円
・ 有利子負債	747億円	819億円
・ D/Eレシオ	0.30	0.33

事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第3四半期 決算短信

サマリー情報、【添付資料】P. 11・12参照)

(単位：百万円)

<セグメント別>	売上高			営業利益		
	24年3月期 第3四半期累計	25年3月期 第3四半期累計	増減額	24年3月期 第3四半期累計	25年3月期 第3四半期累計	増減額
化成品	69,337	70,132	795	2,068	2,813	745
機能性樹脂	52,831	51,912	△ 918	4,591	4,460	△ 130
発泡樹脂製品	44,148	44,628	480	3,499	3,592	93
食品	98,831	97,636	△ 1,195	4,058	3,797	△ 261
ライフサイエンス	35,121	34,191	△ 930	5,943	6,881	937
エレクトロニクス	28,604	30,374	1,769	△ 3,071	△ 2,808	262
合成繊維、その他	23,031	24,387	1,355	1,193	3,420	2,227
調整額	—	—	—	△ 8,833	△ 10,400	△ 1,567
計	351,907	353,262	1,355	9,450	11,757	2,306

※第1四半期連結会計期間より、研究開発体制の一部を見直し、従来「エレクトロニクス」事業に区分しておりました研究開発費の一部を基礎的研究開発費として全社費用に含めております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しております。

- ◎ 売上高は、化成品、発泡樹脂製品、エレクトロニクス、合成繊維、その他の4セグメントが増収となりましたが、機能性樹脂、食品、ライフサイエンス、の3セグメントは減収となりました。
- ◎ 営業利益は、化成品、発泡樹脂製品、ライフサイエンス、合成繊維、その他の4セグメントが増益となり、エレクトロニクスは損失が縮小しましたが、機能性樹脂、食品の2セグメントは減益となりました。

事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第3四半期 決算短信 【添付資料】 P. 2参照)

◎当期の事業セグメント別の状況は以下の通りです。

・化成品事業

塩化ビニール樹脂は、国内外の市況が低調に推移しましたが、コストダウンに注力しました。塩ビ系特殊樹脂は、国内市場・海外市場ともに販売数量が増加しました。か性ソーダは、国内市況は堅調に推移しましたが、販売数量は減少しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は70,132百万円と前年同四半期と比べ795百万円(1.1%増)の増収となり、営業利益は2,813百万円と前年同四半期と比べ745百万円(36.0%増)の増益となりました。

・機能性樹脂事業

モディファイヤーは、製品差別化力の向上、コストダウンなどの収益体質強化に注力しましたが、国内及び海外市場の需要低迷の影響を強く受け、販売数量は低調に推移しました。変成シリコンポリマーは、国内市場・海外市場ともに販売数量が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は51,912百万円と前年同四半期と比べ918百万円(1.7%減)の減収となり、営業利益は4,460百万円と前年同四半期と比べ130百万円(2.9%減)の減益となりました。

事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第3四半期 決算短信 【添付資料】 P. 2・3参照)

・発泡樹脂製品事業

発泡スチレン樹脂、押出發泡ポリスチレンボードは、第3四半期後半より急激な原燃料価格上昇の影響を受けましたが、関係会社再編などの経営の効率化に努めました。ビーズ法発泡ポリオレフィンは、東日本大震災やタイの洪水災害によって停滞したサプライチェーンの回復などを背景に販売数量が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は44,628百万円と前年同四半期と比べ480百万円(1.1%増)の増収となり、営業利益は3,592百万円と前年同四半期と比べ93百万円(2.7%増)の増益となりました。

・食品事業

食品は、低価格品志向が一層強まる中で、新製品の拡販やコストダウンに注力したものの、販売数量が低調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は97,636百万円と前年同四半期と比べ1,195百万円(1.2%減)の減収となり、営業利益は3,797百万円と前年同四半期と比べ261百万円(6.4%減)の減益となりました。

事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第3四半期 決算短信 【添付資料】P. 3参照)

・ライフサイエンス事業

医療機器は、インターベンション事業が公定価格の引下げの影響を受けました。医薬バルク・中間体は、販売数量が低調に推移しましたが、機能性食品素材は国内市場を中心に高機能品の販売数量が前年同四半期を上回りました。

以上の結果、当セグメントの売上高は34,191百万円と前年同四半期と比べ930百万円(2.7%減)の減収となりましたが、営業利益は6,881百万円と前年同四半期と比べ937百万円(15.8%増)の増益となりました。

・エレクトロニクス事業

超耐熱性ポリイミドフィルム、光学材料は、エレクトロニクス製品市場の需要の拡大と新規案件の採用などにより販売数量が前年同四半期を上回りました。太陽電池は、国内市場向けの拡販と徹底したコストダウンに注力しました。太陽電池関連部材は販売数量が低調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は30,374百万円と前年同四半期と比べ1,769百万円(6.2%増)の増収となり、営業損失は2,808百万円と前年同四半期に比べ損失が縮小しました。

事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第3四半期 決算短信 【添付資料】P. 3参照)

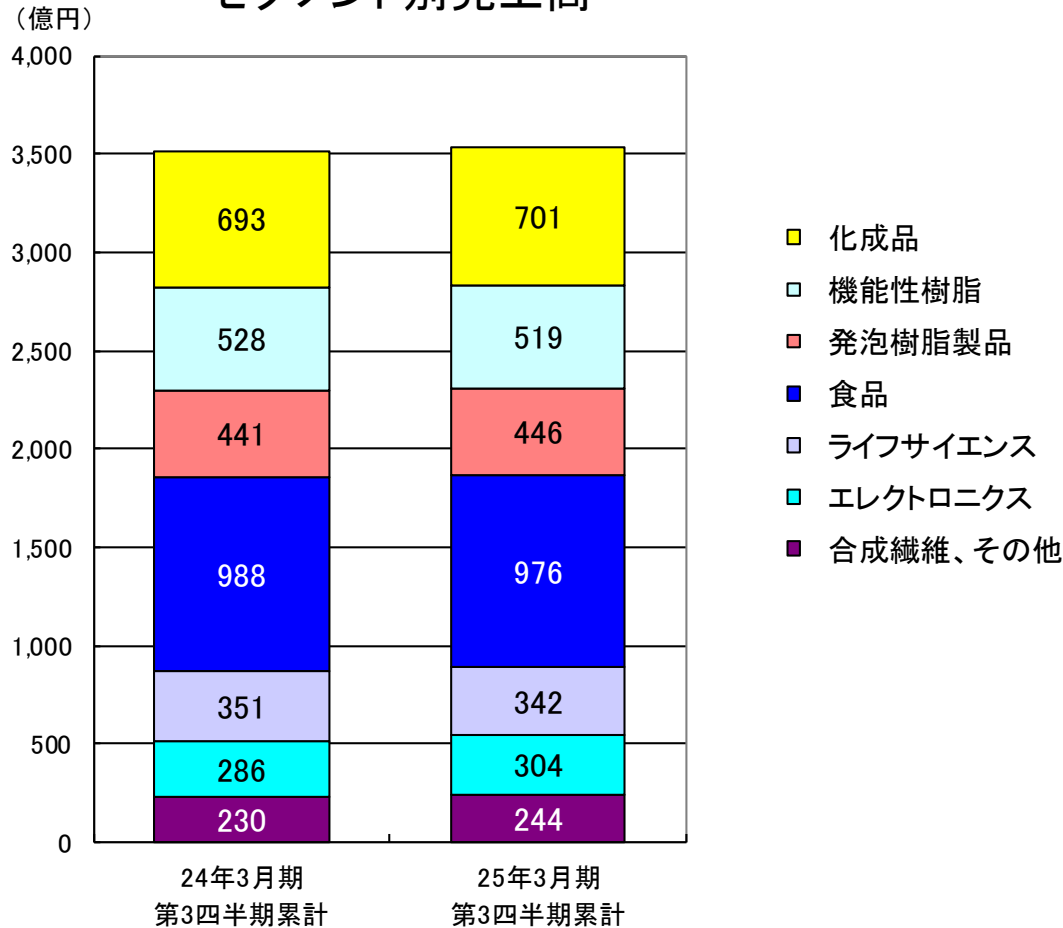
- ・合成繊維、その他事業

合成繊維は、高付加価値品の拡販、販売価格の修正やコストダウンなどの収益改善策に注力しました。

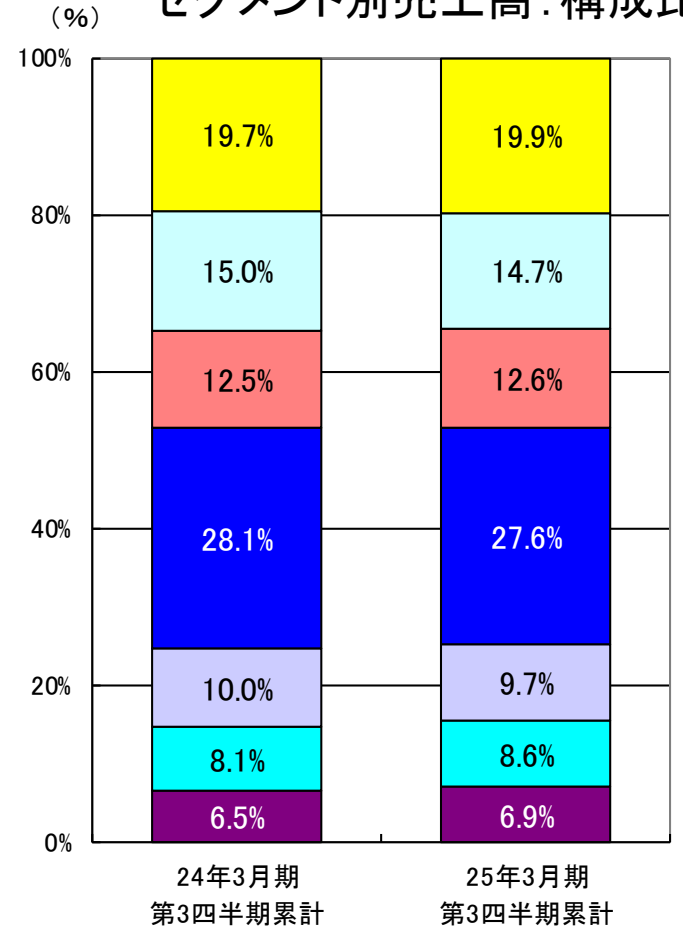
以上の結果、当セグメントの売上高は24,387百万円と前年同四半期と比べ1,355百万円(5.9%増)の増収となり、営業利益は3,420百万円と前年同四半期と比べ2,227百万円(186.6%増)の増益となりました。

事業セグメント別売上高

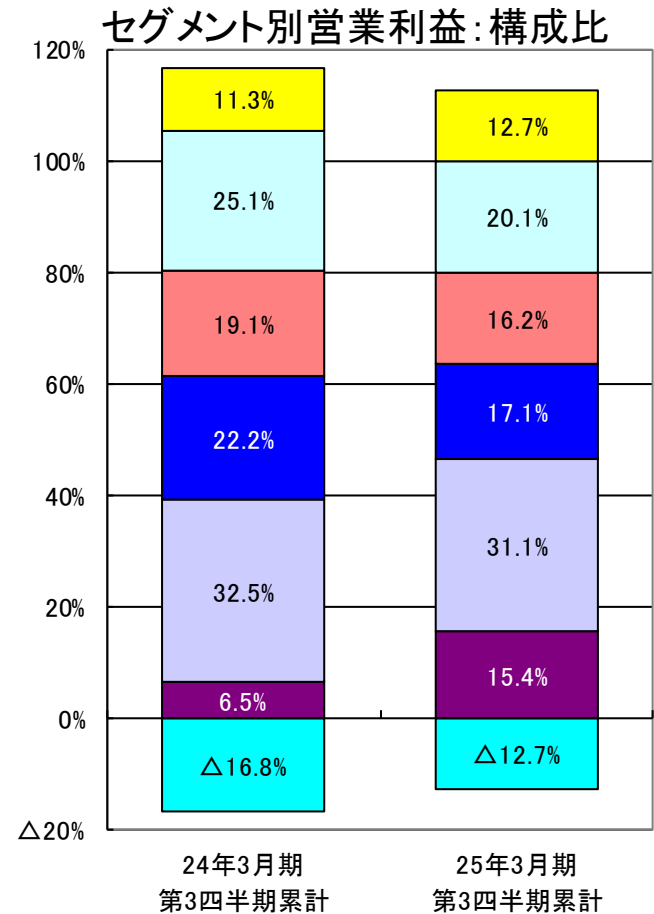
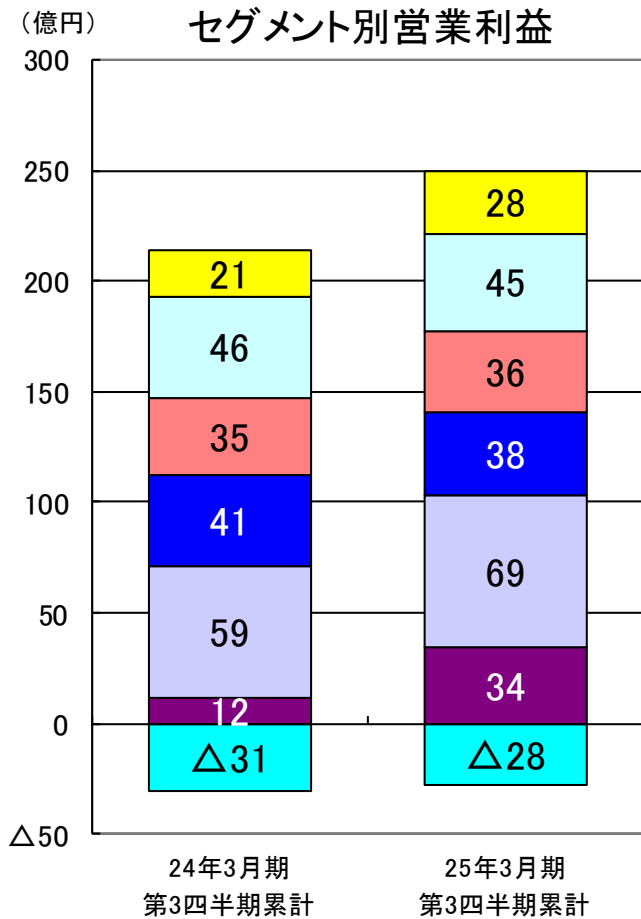
セグメント別売上高



セグメント別売上高: 構成比



事業セグメント別 営業利益



(平成25年3月期 第3四半期 決算短信【添付資料】P. 5・6参照)

(単位：億円)

		24年3月期末	25年3月期 第3四半期末	増減額
資産	流動資産	2,360	2,327	△ 33
	固定資産 等	2,311	2,350	39
	合計	4,671	4,677	6
負債	有利子負債	747	819	72
	その他	1,349	1,252	△ 98
	合計	2,096	2,070	△ 26
純資産	自己資本	2,475	2,508	33
	少数株主持分 他	99	99	△ 1
	合計	2,575	2,607	32
負債、純資産 合計		4,671	4,677	6
D/Eレシオ		0.30	0.33	

※自己資本：純資産から少数株主持分と新株予約権を除外したもの

- ◎ 総資産は、前連結会計年度末に比べて6億円増の4,677億円となりました。
- ◎ 有利子負債残高は、72億円増加し819億円となりました。
- ◎ 純資産は、為替換算調整勘定の増加等により32億円増の2,607億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(平成25年3月期 第3四半期 決算短信【添付資料】P. 9・10参照)

(単位：億円)

	24年3月期 第3四半期累計	25年3月期 第3四半期累計	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	83	198	115
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 206	△ 259	△ 54
フリー・キャッシュ・フロー	△ 123	△ 61	62
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5	9	14
現金及び現金同等物の増減 (含 換算差額)	△ 124	△ 47	77
現金及び現金同等物の四半期末残高	245	227	△ 19

- ◎ 当第3四半期連結累計期間の営業活動による資金の増加は、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により198億円となりました。
- ◎ 投資活動による資金の支出は、有形固定資産の取得による支出等により259億円、財務活動による資金の収入は、借入の実施による資金の増加と配当金の支払額等による資金の減少により9億円となりました。
- ◎ この結果、現金及び現金同等物の当第3四半期連結会計期間末残高は、227億円となりました。

【期中平均レート】

(単位:円)

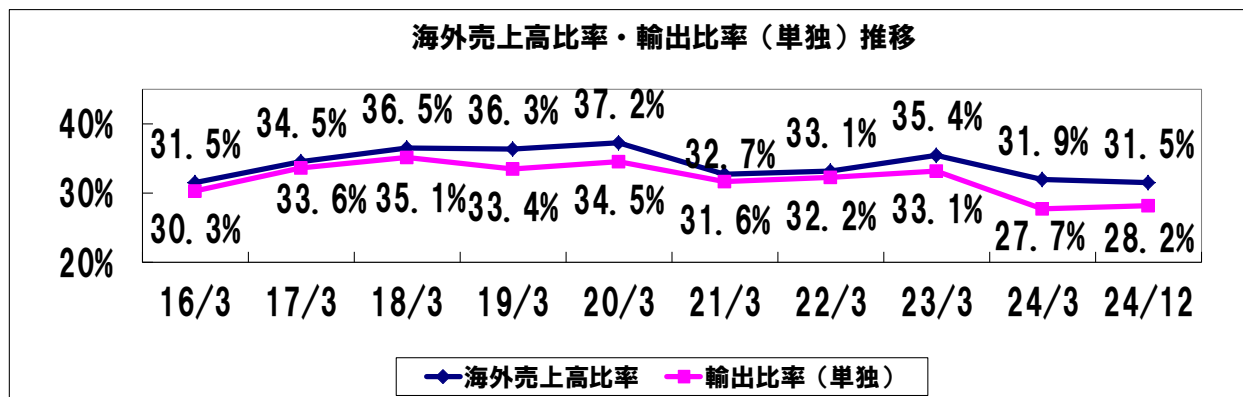
	24年3月期 第3四半期累計	25年3月期 第3四半期累計
米ドル	78.98	79.95
ユーロ	110.63	102.04

【通貨別影響額】

(単位:億円)

	売上高	営業利益
米ドル	6	3
ユーロ	△25	△5
その他	△0	0
合計	△19	△2

◎ 為替は対ドルでは円安となりましたが、対ユーロでは円高となり、合計ではユーロ安の影響が米ドル高の影響を上回り、前年同四半期に対して売上高で△19億円、営業利益で△2億円の影響を受けました。



(単位：億円)

	24年3月期 第3四半期累計	25年3月期 第3四半期累計	増減額	増減率
アジア	471	490	19	+4.1%
北米	204	210	6	+2.8%
欧州	313	293	△19	△6.2%
その他	123	118	△5	△3.8%
海外売上高計 (海外売上高比率)	1,111 (31.6%)	1,112 (31.5%)	1	+0.1%

◎ 海外売上高は円高の影響を大きく受けて1,112億円と前年同四半期並みとなりました。なお、海外売上高比率も31.5%と、前年同四半期並みとなりました。

設備投資・減価償却費 / 研究開発費

(単位：億円)

	24年3月期 第3四半期累計	25年3月期 第3四半期累計
設備投資	255	230
減価償却費	216	209
研究開発費	148	167

(平成25年3月期 第3四半期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 4参照)

- ◎ 世界経済は、欧州経済低迷が懸念されるものの、米国及び新興国では景気回復の兆しがあります。わが国経済は、新政権によって打ち出された経済政策により足元では円高・株安の修正が進んできており、なお不透明感が残るものの、景気回復が期待されます。
- ◎ このような経済環境の中、当社グループは、重点戦略分野への事業展開を進め、新規事業の創出、グローバル展開やアライアンスの強化等により、事業構造の変革を推進してまいります。また、既存事業での販売数量増大のための施策や、生産から販売まで含めたトータルコスト低減に向けた技術開発や業務革新をグループ一体となって進め、収益力強化に徹底して取り組んでまいります。
- ◎ 通期の連結業績予想につきましては、変更しておりません。

前回発表予想

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期	5,000	200	185	100

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- 当社薄膜シリコン太陽電池モジュールのPID試験耐性を実証
－ 高電圧ストレス下での出力安定性を実証 － 1月23日
- 発泡ポリスチレン樹脂の価格修正について
－ 2月12日出荷分より、キログラム当たり汎用品30円の値上げ － 1月18日
- 自動車内装用塩ビパウダースラッシュコンパウンドの供試を開始 － 1月16日
- ラストラスファーを日本国内で本格販売を開始 － 12月6日
- ITRIとの共同研究でフレキシブルディスプレイの研究開発を加速 － 12月4日
- 遺伝子検査分野などの検査診断事業を積極展開
－ 多項目同時検出可能な核酸クロマト型チップを本格展開 － 11月22日
- 放射能除染用洗浄剤の本格供給を開始 － 11月20日
- 鹿島電解(株)、鹿島塩ビモノマー(株)再編に関する正式合意の件 － 11月12日
- 慢性疲労症候群に対する還元型コエンザイムQ10の改善効果について
－ 大阪市立大学との共同研究で効果を確認 － 11月1日
- バウムクーヘン、ロールケーキ、ブッセ等の生地用の起泡性乳化油脂を開発
－ 従来品に比べて起泡力、生地安定性が向上、焼成後はソフトな口当たりを実現 － 10月31日

kaneka